

一、(ロンドン)リンリスガウ印度副王及ガンヂ。この會議は遂に不成功に終つた。印度國民會議派は飽く迄印度の獨立を要求して居るのであるが、國民會議派地方諸政府は獨立を得るまで職務を執行せずと辭職した。

二、巴里警察の在巴里ソ聯通商部不法侵入。二月五日午前九時三十分巴里警察より平良の警官約百名がソ聯通商部に闖入し通商代表部長の抗議に拘らず家宅捜査を行つた。次長は繰り返し抗議したので警官は次長並に代表部員を住宅に迄連行したる上引續き捜査を行ひ多數の文書を押收して引揚げた。連行されたる次長及部員は間もなく釋放されたが駐佛ソ聯スーリツツ大使は直ちに佛外務省に赴き嚴重抗議を發するに共に捜査の打切りと押收されたる文書の返還を要求した。

三、ソ聯通信人民委員部に於ては國內のラヂオ化を積極的に行ふに決定した。即ちモスクワ、レニングラド等々の大都市を始めカザクスタン共和國グルヂヤ共和國等に受信機四千萬臺の普及に努むる筈である。

二、ブラヴダ紙論説大意

ソ聯赤色陸海軍はその創始二十二周年を迎へる、この間に於てソ聯の赤軍は空、陸、海に於て如何なる敵をも之を破り得る強大を加へた、これこそ社會主義工業の勝利が齎せる處であらう、我々は今資本主義の包圍下にある、之を銘記しなければならぬ、故に操縦士も戦車隊員も手榴弾手も機銃手も最新の軍事技術を研究して居るのである、而も更に大衆に向つて軍事知識普及を計らねばならぬであらう、赤軍創始二十二周年を迎ふる日は即ちソ聯が戦闘準備成れることを示す日となすべきである。

今日の新聞論調 (第四百三十六號) 内閣情報部三・一〇(土)

内 容 目 次

- △秘密政治と國民協力(日日)
- △外交論戰の着眼點(讀賣)
- △物動の問題(國民)
- △除名要求説(都)
- △強制貯蓄の問題(朝日)
- △家族手當案(日日)
- △蘇聯極東外交の眞實性(中外)
- △歐洲和平説(報知)
- △土軍の獨系造船所占據(朝日)

X X X

△秘密政治と國民協力(日日)

國民の知らんとする重要問題は大抵秘密會でなければ答辯されない。ノモンハン事件も秘密會に譲られ、新支那政權と我國との間に如何なる取極めが出来るかも秘密會でなければ説明されないと言はれる。豫算の實行性について又大増稅案と豫算との聯關に於て物動計

書内容を疎かうとしても政府は秘密會を要求し而も秘密會でも抽象論議で議會の憤懣を買った。秘密主義に對する議會の不滿は三土總算委員長の演説に盡きる。議會はいへ統帥事項に涉る機密を知らんとするものではなかつた。ある程度の物動計畫内容を知らせずして豫算の審議を求めるは盲従を強ひるものである。思ふに政府は秘密主義を好むといふより一分の秘密を明かにすることにより十分の責任問題が附隨して起るのを恐れる場合が少くない。だから秘密の公開を要求するのは先づ彼等の責任感に刺戟を與へるのが捷徑のようだ。

△外交論戰の着眼點（讀賣）

質疑が多く過去外交の経過を質すに止まり將來わが外交を何れの方向に導くべきかの本質論には觸れてゐない。議會を通じて相當の強力論が示顯される事は必要であるが論據は飽く迄道義と條理の上に立つべきでわが國の立場と國際的影響を無視した悲歌慷慨であればむしろ逆効果を生ずる。暴露演説も時に必要だが道徳途説や片言隻句をつかまへてのものならば外交上危険千萬であり、威信にも拘はる。外交當局は萬邦協和の理想を説いてゐるが、理想は理想で現實は飽く迄現實である。事變處理を中心とするわが國現状と利害錯綜する世界情勢において外交の中心を何處におくかといふことが焦眉の問題である。この目標は對外貿易振興とも物動計畫についても妙からの關係がある。もし機密を要するならば秘密會とするも可である。今後の質疑應答に於てわが外交の進路と中心が正確に把握され内外政策の調和に資すべきことを希望する。

△物動の問題（國民）

衆議院本會議秘密會の物動計畫に對する説明はやり直しとなつたが、果して十分の説明が行はれたか否かは疑問である。十五年度物動計畫自身がまだ精査に出來てゐないと思はれるからである。そこで今日の物動編成技術から見てもと之を豫算と睨み合せることがいかに難くないものであるかがわかるのである。而も十五年度豫算と睨み合せたといはれるものは去る八月出來た物動概略案であるが竹内總裁説明によれば現に編成中のものは非常に辛いものであるといふ。これに對し豫算はどう見合つてゐるかといふに、豫算編成の物價基準は十三年秋に置き軍需單價も昨年七月の切下げ水準を踏襲してをり、物資所要計畫としては全く削減をみてゐない。これがせり辛い物動情勢から見ても果して實行し得るかが問題である。現實情勢としては窮屈な物資關係に對し過剰な政府購買力が奔流して物價政策の基本を攪亂することになる。かかる進み方こそインフレの本質といへるのである。これに對し現在の統制の進み方は公定價格制と物資配給制當制の方向に向つてゐるが、若しこれが普遍的に且徹底的に行はれるならばインフレはその本質を失ひやがて豫算自身が修正されざるを得ないことになる。今日の物動技術はそこまで行つてゐないし、生産力擴充計畫さへ設備資材のみが計畫され、設備の消耗する原材料につき産業別の配分しか及んでゐない實情である。この間のギャップが修正されぬ限り物動と豫算との乖離はインフレに

力強く作用せざるを得ない。此の間事態の進行をチェックする力は金融政策の部面に切に求められねばならぬ。

△除名要求説（齋藤氏失言問題）（都）

内閣に齋藤隆夫氏の除名を懲罰委員に要せんとの議ありと傳へられるが眞とすれば憲政に盲目なるもので、恐らく政黨代表たる閣僚は耳を假すことはなからうと思ふ。齋藤氏庇護のためでなく、行政府と議院とをして各自その権能を恪循せしめんが爲に一言を呈する。

△強制貯蓄の問題（朝日）

樺内蔵相が悪性インフレ阻止策として従來の單なる貯蓄奨励や公債消化の方法以外に新工夫を試みることは蔵相自身語られたが、議會での答へは所謂半強制貯蓄の強化に盡きる。考へねばならぬことは此貯蓄による資金回収がインフレ抑止の効果を生むためには強制貯蓄そのものは餘程徹底的に行はれるのでなければならぬことである。

のみならずこれを徹底的に遂行して、しかも國民各層に不服のないやう合理的に公正を期し得る方法ありや否やの問題がある。更に一步を進めて考へれば民衆の手中に資金が多いため買漁りが起るよりは物價が不斷に昂騰氣勢にある故に資金は少くても買溜めの傾向が起る一面を注目すべきである。要するにインフレ抑止を通貨方面からする考へ方は經濟組織と動きとが「自由」であるこの大前提に立つが、その自由を前提としては收拾できぬ事態に來てゐることが認識される要がある。貯蓄による通貨吸収の必要は認めるが同時にインフレ抑制の「決定的な點」が直接的な物價統制の強化にあるを強調せざるを得ない。

△家族手當案（日日）

低賃金生活者に対する家族手當支給の問題はいよいよ取上げられるらしいが銃後人心安定のためにも急務である。殊に人口政策の建前から多くの子供を生み育て、ある家庭が特に優遇さるべきは十分な國家的及び社會的理由があり又世界的大勢でもある。民間でも又東京府警視廳その他官廳でも實行されたことがあつたが九・一八物價停止令以來、勞賃の増加が生産原價と購買力を通じて物價騰貴に拍車をかける如き悪循環を生ずることの理由で賃金給料も釘付にされ、前内閣で問題とされた家族手當が有邪無邪となつた。しかし現實に前提條件が崩れかけてゐる以上少額收入者の家族手當など萬障を排しても實行し他方それが物價に及ぼす悪影響を豫防する用意を同時に講ずべきものと思ふ。

△蘇聯極東外交の眞實性（中外）

援蔣の第三國關係といつても究極は英蘇だが、歐洲戰爭勃發以來英の援蔣政策も多少變動があつたように推定されるがソ聯は依然たるもので西北ルートを通じての武器輸送は夥しき量であり中國共產黨の實勢力が逐日増強されるのも此間の消息が知られる。事變處理關係を離れて日ソ關係を律することは出来ないがソ聯位對手として頼むべからざるはない。議會の質疑應答ではノモンハン國境確定委員會も正面衝突で打切りとなつたが別個に全面的國境確定委員會及紛争處理委員會の構成交渉が順調に進められて居り北洋漁業條約もやがて本交渉が開かれ通商協定も交渉中といふがソ聯の眞意が奈邊にあるか殆ど凡慮の及ばぬところである。隣國ソ聯との友好關係は欲するが、ソ聯には友好關係を欲するの態度はどの點から觀ても思へぬ事例に乏しくなく七擒八縱の外交で我國を練弄するのではないかと思はれるのであるから、ソ聯が今少し信のおける態度をこり得ないかと思ふと共に我方としても常時この觀點を見失つてはならぬと思ふ。

△歐洲和平説（日本の態度如何）（報知）

歐洲戰爭勃發以來之を天與の現象と見これを基準として事變處理を推進せしめんとする雰囲気があるが、かかる他力本願的態度に安んずるは危険である。

交戦國に確たる戦意ありやが疑はれるし、近頃の國際關係は複雑怪奇で如何なる機會に休戦とならぬかは限らぬ。現に英に和平の説が動いてゐるし、南阿聯邦でも否決はされたが和平案が出てスカンデナヴィアにも和平説がある。我動としては歐洲の戰局を心願りにせず毅然として東亞新秩序建設に邁進する覺悟を固むべきである。

△土軍の獨系造船所占據（朝日）

土軍が有名な「黄金角」に在る獨造船所を占據した事件は政治的動機を内包し、近東情勢の一端を反映するものがある。土軍今回の行動は英佛と相互援助協定を有する同國の明白な反獨的行爲であり、獨若くは獨ソ共同の對バルカン及び對近東企圖に向つて掲げられた赤信號といへる。一面また此の方面に對する獨ソ對英佛の相對的態勢を一瞥する必要がある。目下獨のみで對土積極行動を起し得ることは考へられず、ソ聯の力を借らねばならぬが、遂當りソ聯にこの餘裕、意向があるかどうか、一方英佛は獨國まで軍事行動を及ぼし難いにしても、土國殊に近東方面に於ては直ちに活動し得る準備を整へたやうであり、波國、芬國の場合とは事情を異にするは明白である。要するに今後の獨土關係は危險線に立つと共にこれに對するソ聯の去就、延いて英佛との衝突如何の問題を喚起し、同時に印度等英佛の所謂「帝國的」問題に浸透性を有し、バルカンより舞臺が遙かに廣くその成行は重大性を帯ぶるものである。

△其他「内閣の心構へ、氣魄に乏し、政界二潮流、想紀する一事」（都）



本日
の
新聞
概観

第百五十二號

内閣情報部報道班三・一〇(土)

△概観

本日期刊は議會關係、産業組合の保險事業に進出、支那事變論功行賞の發表、南軍作戰に關する大本營發表が中心である。經濟面に産組の保險事業進出に對する各方面の意向が大きく扱はれ、また社會面に論功行賞が扱はれてゐる。

△國內關係

一、紀元の佳節に大詔を拜し首相講話發表、閣議打合せ(國民)

二、議會質疑應答中主なるもの

イ、外相南方政策の見解闡明、領土的野心なく、經濟開發に努力、不可侵條約も考慮

ロ、東亞新秩序は日滿支聯携、第三國を排除せず、外相言明

ハ、徴兵年齢引下げの意なし、陸相言明

ニ、米の強制買入制將來も發動せず、農相言明

ホ、端境期待越五百萬石、米穀需給に確信、農相言明

ヘ、配當制限強化せず、蔵相言明

ト、肥料國家管理へ、農相答辨

チ、この上増税行はず、蔵相言明

本日期刊は議會關係、産業組合の保險事業に進出、支那事變論功行賞の發表、南軍作戰に關する大本營發表が中心である。經濟面に産組の保險事業進出に對する各方面の意向が大きく扱はれ、また社會面に論功行賞が扱はれてゐる。

一、紀元の佳節に大詔を拜し首相講話發表、閣議打合せ(國民)

二、議會質疑應答中主なるもの

イ、外相南方政策の見解闡明、領土的野心なく、經濟開發に努力、不可侵條約も考慮

ロ、東亞新秩序は日滿支聯携、第三國を排除せず、外相言明

ハ、徴兵年齢引下げの意なし、陸相言明

ニ、米の強制買入制將來も發動せず、農相言明

ホ、端境期待越五百萬石、米穀需給に確信、農相言明

ヘ、配當制限強化せず、蔵相言明

ト、肥料國家管理へ、農相答辨

チ、この上増税行はず、蔵相言明